

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	水や緑が守られ増える	施策の成果指標又はムトス指標	身近な自然は守られているかを感じる市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか	4年間の振り返り	荒廃した集落周辺の森林(里山)63haの保全管理が図られることにより鳥獣被害の防止の効果があつた。		
	後期に向けた課題	緩衝帯整備事業を実施しただけでは、農業被害を抑えられないので、防護柵の設置などの対策や追い払い、捕獲等も併せて実施する必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	山林所有者、耕作者、JA、農業委員会、地域住民等も係わった獣害学習会などを実施する。		
	後期に向けた課題	山林所有者、耕作者、JA、農業委員会、地域住民等も係わった獣害学習会などを実施する。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	サル、シカ、イノシシ等の被害が多い地区及びクマの錯誤捕獲多い地区で実施することにより効果が高いところで実施した。		
	後期に向けた課題	サル、シカ、イノシシ等の被害が多い地区及びクマの錯誤捕獲多い地区で実施することにより効果が高いところで実施する。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	野生鳥獣による農業被害が耕作放棄に繋がり、地域全体の農業振興に影響があり適切である。		
	後期に向けた課題	野生鳥獣による農業被害が耕作放棄に繋がり、地域全体の農業振興に影響があり適切である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	被害が大きい里山周辺の農家。		
	後期に向けた課題	被害が大きい里山周辺の農家であるが地域全体の問題として地区の学習会を開催する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	荒廃した集落周辺の森林(里山)保全管理が図られることにより鳥獣被害の防止の効果があつた。		
	後期に向けた課題	緩衝帯整備事業とともに、防護柵の設置、追い払い、捕獲等も併せて実施していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------